

有害プランクトン情報

(令和5年度 - No. 6)

千葉県水産総合研究センター

東京湾漁業研究所・生産技術研究室

千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾で沖合のプランクトン調査を行っている他、県内の貝類漁場でもプランクトンの出現状況を調べています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- | | | | | | | |
|-------|-------|---------|-----------|------|----------|------|
| ○ 調査日 | 沖合 | 9月 第1回 | 内湾 (8地点) | 9/4 | 内房 (7地点) | 9/5 |
| | | 9月 第2回 | 内湾 (10地点) | 9/20 | 内房 (8地点) | 9/22 |
| | 貝類漁場内 | 木更津北部地区 | 9/13 | 富津地区 | 9/20 | |

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

8/28にシャトネラ属が警戒を必要とする濃度(10細胞/mL)を上回る地点がみられ、その後も継続して確認されていることから、警報(R5 No.1-1)を継続して発出中です。今後の動向に注視が必要です。

- 9/20に調査したところ、浦安でシャトネラ属が警戒を必要とする基準を大きく上回り、3,000細胞数/mLを超えていました。
 - ・ 9/20 アクア南, 船橋, 浦安(沖合) 最大密度は浦安の3,382細胞/mL
 - 県環境研究センターによる調査でも、シャトネラ属がみられました。今後の動向に注視が必要です。
 - ・ 9/14 内湾北部(沖合) 木更津沿岸及び上総湊沿岸で確認され、密度はともに10-100細胞/mL
 - ・ 9/15 内湾北部(沖合) 10地点で確認され、最大密度は袖ヶ浦沖東の807.5細胞/mL
 - ・ 9/29 内湾北部(沖合) 7地点で確認され、最大密度は千葉沿岸の6細胞/mL
 - 調査時に沖合漁場でカレニア属がみられました。
 - ・ 9/4 内湾の全地点(沖合) 最高密度は盤洲北の38細胞/mL
 - ・ 9/20 アクア南, 船橋, 盤洲北, 盤洲南, 浦安(沖合) 最大密度は盤洲北の0.6細胞/mL
 - 県環境研究センターによる調査で、カレニア属が注意を必要とする基準を超える密度(100細胞/mL以上)で上回る地点がみられました。今後の動向に注視が必要です。
 - ・ 9/4 内湾北部(沖合) 5地点で確認。最高密度は浦安沿岸及び京葉港沿岸の1000細胞/mL以上
 - ・ 9/7 内湾北部(沖合) 3地点で確認され、最高密度は五井沖の1000細胞/mL以上
 - ・ 9/15 内湾北部(沖合) 3地点で確認され、最大密度は幕張沖の4.2細胞/mL
 - ・ 9/29 内湾北部(沖合) 3地点で確認され、最大密度は千葉沿岸の39細胞/mL
- ※ シャットネラ属は1細胞/mL、シュードシャットネラ属は100細胞/mL、ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL、カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。
- 赤潮(透明度1.5m以下, pH8.5以上, 酸素飽和度150%以上, クロロフィル a 50 µg/L以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - 調査時に沖合漁場でディノフィシス コウダータが低密度で確認されました。
 - ・ 9/20 千葉灯標, 盤洲北, 羽田沖を除く全地点(沖合) 最大密度は船橋の2.2細胞/mL
 - ※9/4の調査ではみられませんでした。
 - 貝毒の被害情報はありませんでした。

○シャトネラ属は鰓にダメージを与えることで、カレニア属は高濃度の状態で両属とも魚介類にへい死を引き起こします。なお、人体には無害です。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)

【有害プランクトンの出現状況】

- 8/28 に大貫漁港内でシャトネラ属が警戒を必要とする濃度 (10 細胞/mL 以上) 確認され、警報 (R5 No.1-1) を継続して発出中です。9/5 にも確認されており、注意を必要とする濃度 (1 細胞/mL) 以下でしたが、今後の動向に注視が必要です。
 - ・ 9/5 富浦 (沖合) 密度は 0.05 細胞/mL
※9/22 の調査ではみられませんでした。
- 調査時に沖合漁場でカレニア属がみられました。今後の動向に注視が必要です。
 - ・ 9/5 内房海域 (沖合) 全地点で確認され、最大密度は富津南の 4.2 細胞/mL
 - ・ 9/22 内房北部海域 (沖合) 3 地点で確認され、最大密度は富津南の 0.3 細胞/mL
※8/1 の調査ではみられませんでした。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH8.5 以上, 酸素飽和度 150%以上, クロロフィル a 50 µg/L 以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

○ 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

○ 確認されませんでした。

○ 貝毒の被害情報はありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

9/4,5 内湾・内房 珪藻シュードニッチア属, タラシオシラ属, 渦鞭毛藻ケラチウム属, カレニア属など

9/20,22 内湾・内房 珪藻タラシオシラ属, タラシオネマ属, 渦鞭毛藻カレニア属など



ケラチウム属
(9/4 船橋)

カレニア属
(9/4 船橋)



